

近年の荒川キャンパスにおけるインターンシップ実施状況について

著者名(日)	宮野 智行, 高野 邦彦, 鈴木 拓雄, 杉本 聖一
雑誌名	東京都立産業技術高等専門学校研究紀要
巻	5
ページ	37-41
発行年	2011-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1282/00000112/

近年の荒川キャンパスにおけるインターンシップ実施状況について

About the execution condition of the internship in the Arakawa campus in recent years

宮野 智行¹⁾, 高野 邦彦¹⁾, 鈴木 拓雄¹⁾, 杉本 聖一¹⁾

Tomoyuki MIYANO, Kunihiko TAKANO, Takuo SUZUKI, Seichi SUGIMOTO

Abstract: The data reduction that would be acquired by the previous year was done. Additionally, those data was made visible by a lot of tables and graphs. In this report, the tendency at the internship of recent years was shown. The size of the turnout shows the tendency to increase every year. The size of the turnout according to the course or training site was shown. The result of fiscal year 2010 similar to the situation to date was obtained. The result of the student questionnaire was brought together. It has been understood that the student is satisfied with the internship. It was answered as useful for the student life in the future that most students had participated at the internship. And it has been understood that as a result of the questionnaire, there is little mismatch.

Keyword internship, execution condition, result report, attestation evaluation, questionnaire, matching

1. まえがき

東京都立産業技術高等専門学校荒川キャンパスでは4年生がインターンシップに参加している。荒川区、足立区の地場産業の他、就職先として関係の深い企業や大学、研究所を実習先とし、夏季休業中の1~2週間に、機械操作による製品、部品作りや、検査、実験、保守、設計、CAD、情報処理等の就業体験を行う。インターンシップ室ではこうした学生のインターンシップに係る実習先マッチング、保険加入、申込書・報告書作成の事前事後指導、送付状発送等の事務手続きをサポートしている。

インターンシップの報告書としては、東京経営者協会^[1]、(社)雇用問題研究会 インターンシップ支援事務局^[2]などが毎年発行しており、本校においても品川・荒川キャンパス合同の報告書が平成 21 年度から発行されている^[3]。これまでに本校で発行されてきた報告書には、単年度毎のデータ及び集計結果は記載されているが、年度間の傾向やグラフ等による可視化された情報はなかった。第三者機関による認証評価においてもインターンシップについては実施状況が把握できる資料が求められているため、今回、H18 年度から H21 年度まで

の資料整理を行い、統計データを整理しグラフに示したので、その結果を報告する。H18~20 年度は航空高専、H21 年度は産業技術高専荒川キャンパスのデータである。平成 22 年度については未確定のため今回の報告書には含めていない。

次にインターンシップに関するアンケート調査結果についての外部報告では、インターンシップ支援事務局の報告があり、「学生意識アンケート(有効回答数 370^[4]/262^[5])」として、動機、満足度、参加後の意識変化について調査結果がまとめられている。また、インターンシップ経験のある社会人を対象にした「インターンシップ経験の影響・効果(有効回答数 100^[4]/57^[5])」についても、満足度、職業生活への影響等について報告されている。

これまでに本校が発行してきた報告書では、年度毎の集計結果、実施状況については記載されてきた^[3]。アンケート結果については平成 21 年度の荒川キャンパスのアンケート結果を整理し、文献[7]に報告した。本稿で、平成 18~20 年度のアンケート結果を追加整理し、荒川キャンパスにおける近年の学生意識の傾向についてまとめる。

1)東京都立産業技術高等専門学校 インターンシップ室

表1 インターンシップ派遣実績

	18年度	19年度	20年度	21年度
学生数	187	196	174	151
参加人数	56	48	73	52
参加率(%)	29	24	41	34

2. インターンシップ派遣実績

H18年度からH21年度のインターンシップ受入企業数、参加者数、参加割合を表1及び図1に示す。各年度とも24%～41%の学生が参加している。H19年度の参加率の低下は、“はしか”による学級閉鎖、夏季休業期間の短縮の影響によるものである。図2にH21年度のコース別参加割合を示す。航空宇宙コースが35%となり派遣者数が最も多い。H22年度は60名程度(約43%)の学生の参加が見込まれているため、インターンシップに参加する学生数は増加の傾向にあると言える。

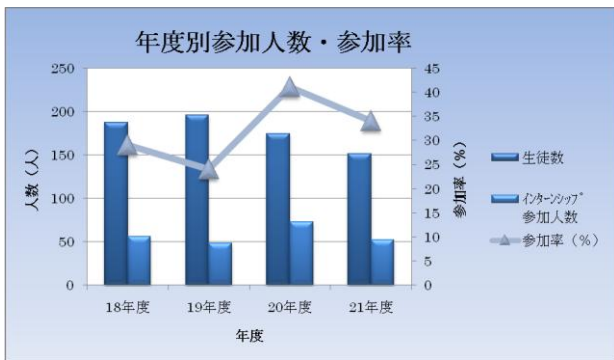


図1 インターンシップ派遣実績と割合

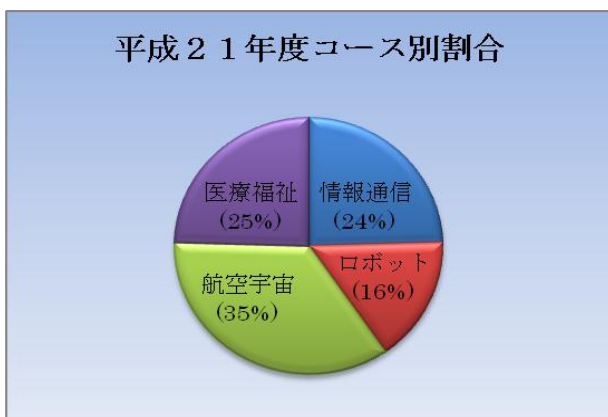


図2 コース別派遣実績

3. 実習先の種別

インターンシップの受入許可を表明して頂いた実習先の業種と規模の割合を表2、図3に示す。実習先の分類は、大学・

研究所、足立区、荒川区(足立区・荒川区インターンシップ事業)、一般企業の4区分とした。大学・研究所については、希望者多数の場合は実習先において選考が行われるため、年度毎に学生が希望したテーマによって派遣者数が変動する。一方、足立、荒川は区によって派遣者数が定められており、毎年ほぼ同数である各10名前後の学生の派遣が可能となっている。

表2 提携、及び、受入許可実習先の種別

	18年度	19年度	20年度	21年度
大学・研究所	12	5	11	4
足立区	10	9	10	8
荒川区	10	10	10	10
一般企業	28	28	46	35
合計	60	52	77	57

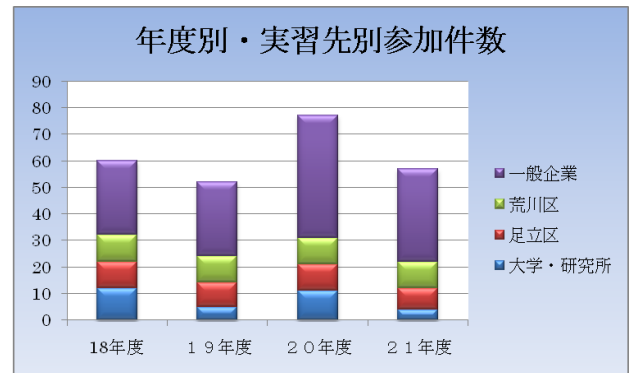


図3 受入許可企業の種別

4. 受入企業数に対する派遣実績

受入の表明があった企業(提携・受入企業数)のうち、実際に学生が参加した企業(参加数)の割合を図4に示す。参加の割合が年々増加しており、今後、受入企業の新規開拓が早急の課題となる。



図4 受入企業数に対する参加の割合

5. 実習先の業種と規模

18年度～21年度において、学生が実習を行った企業の業種と企業規模を図5、図6に示す。業種別では機械系が最も多く40%となっている。次いで電気電子(16%)、輸送(12%)と続き、以下は設備(10%)、通信(9%)、大学・研究所(5%)となっている。大学・研究所の実習先を増やすことが今後の課題となる。企業規模は社員数を基準とし、500人以上の大企業には44%の学生が実習し最も多い。中小企業には33%、零細企業には9%の学生を派遣している。今回社員数の不明であった企業については今後調査を進める。

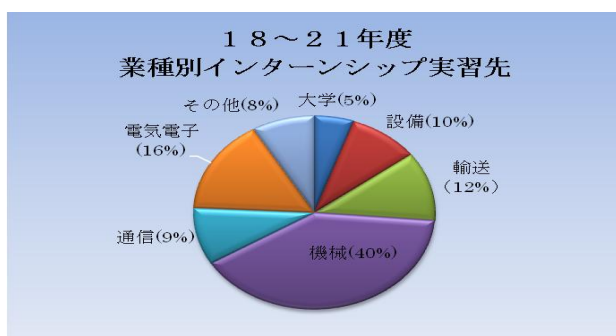


図5 業種別実習先

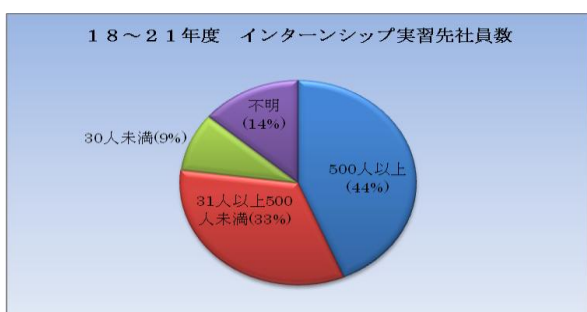


図6 インターンシップ実習先社員数

6. インターンシップの満足度

H18～21年度にアンケートを実施した。アンケートは10問で、参加学生の満足度、実習内容について、今後の学生生活への影響、実習の期間、条件などを問うものがあつた。以下、アンケート質問に沿って結果をまとめる。

質問1 「自分のためになったと満足したか」に対して、人数を表3に、割合(%)を図7に示す。大変満足、満足と合わせると各年90%以上が満足しており、文献[4][5]の結果(7～9割が満足)よりポイントが高い。満足していないと回答した学生は、H19とH20年に各1人だけであり、満足度は大変高いと言える。

表3 アンケート結果 質問1「自分のためになったか、満足度」(人)

	大変満足	満足	普通	満足していない
H18	46	11	2	0
H19	34	16	1	1
H20	44	27	6	0
H21	39	16	1	1

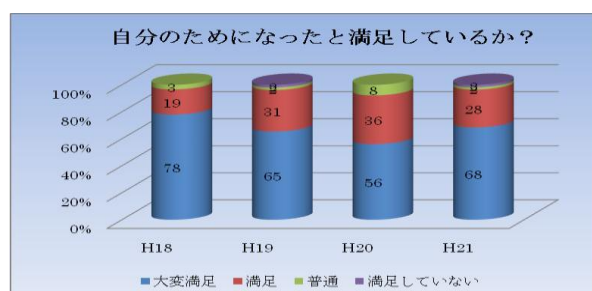


図7 アンケート結果 質問1「自分のためになったか、満足度」(%)

質問2 「実習先企業は、どうでしたか?」に対する印象では「良かった」、「普通」を合わせるとほぼ100%であり、H21年に未回答が1人いただけである(図8)。

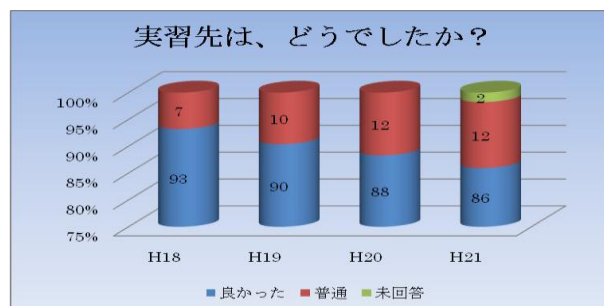


図8 アンケート結果 質問2「実習先はどうであったか?」

質問3 「ためになったものは?」に対して本校の結果(図9)では、上位から「企業活動や職場の体験(77~83%)」、「技術に触れた(58~67%)」、「社会人との交流(52~64%)」となっており、体験や経験が上位を占める。文献[4][5]では、アンケート項目や表現は異なるが、上位から「職業や企業についての理解(64.5%)」、「働くということに対する認識(54.2%)」、「就職したいという気持ち(37.8%)」となっており、大学院生、大学生を含む文献[5]の方が職業意識が強く、近年の本校の結果「社会人になる動機づけ(17~29%)」はポイントが低かった。

図 11 アンケート結果 質問5「就職活動への影響」

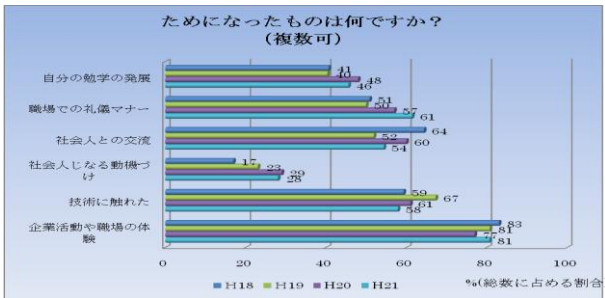


図 9 アンケート結果 質問3「ためになったものは何ですか？」

質問4 「ものづくりをどのように感じたか」については、図 10 に示すように、上位から「ものづくりは技術である(52～63%)」、「技能(31～35%)」、「職人の腕やカン(31～37%)」、「作業(27～42%)」となっており、「技術」が最も高く、次いで「技能」「職人」「作業」という受け止め方が多い。

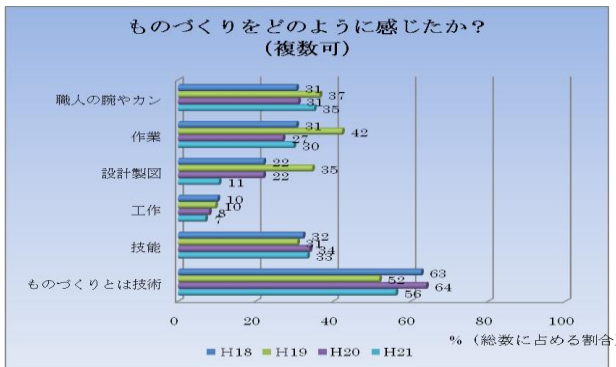
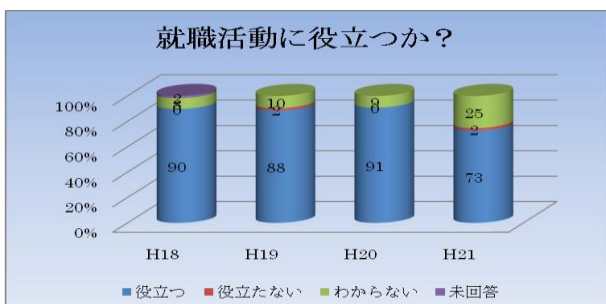


図 10 アンケート結果 質問4「ものづくりをどのように感じた？」

7. 今後への影響

質問5 「就職活動に役立つか」、質問6 「勉学や卒研に役立つか」の回答結果をそれぞれ図11、図12に示す。それぞれ質問5では「役に立つ(73～90%)」、質問6では「役立つ(65～75%)」と回答している。文献[1]では、質問5「就職に役立つか」に相当すると考えられる「職業や企業についての理解が深まった(93%)」、「働くという意識が変わった(90.6%)」にもなっている。また、意識の変化についての比較では、荒川キャンパスの学生の方が、わからないと答えた学生数が、就職(8～25%)、卒研(18～33%)に登り、直接影響を与えたと考えていない



と回答した学生数が多い結果となった。就職に関してわからない(25%)と回答した学生に対して追跡調査を行った結果、24人中18人は大学進学、または、規模の異なる企業に就職しており、実習先と進路が異なるケースであった。

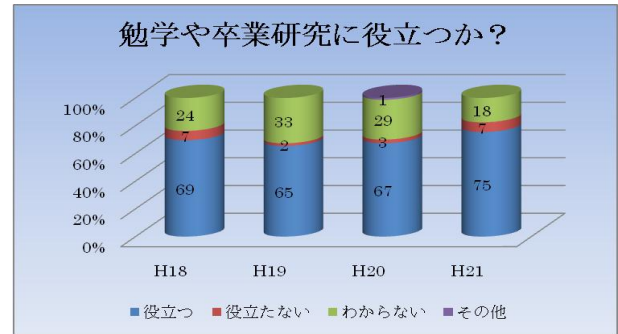


図 12 アンケート結果 質問6「勉学、卒研への影響」

質問7「インターンシップ先に就職したいか」という問いには、「就職したい(8～16%)」「候補の一つ(51～66%)」となり、就職を意識している学生が8割に達し、インターンシップと就職先候補の関係が明確に表れている。逆に、就職したくない(7～12%)になり、4年の実習時点では、企業やインターンシップに対するイメージと実際の実習先での経験が一致しなかった学生が1割程度いたことが分かる。

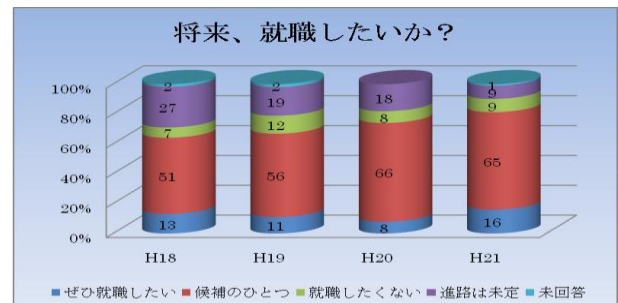


図 13 アンケート結果 質問7「実習先に就職を希望するか？」

質問8「望ましい実施期間」を問う質問に対しては、「1週間(30～38%)」、「2週間(46～61%)」となり、2週間の方が多く結果となった。文献[1]では、「1週間(35.4%)」「2週間(45.7%)」の実施となっており、荒川キャンパスの学生の方が長期(2週間)の実習を希望している。

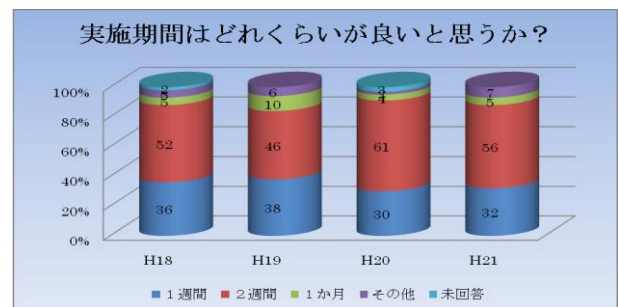


図 14 アンケート結果 質問8「実習期間について」

8. 学生・企業間のマッチング

インターンシップにおける学生の希望と企業ニーズに関するマッチングの問題が生じるケースがある。航空高専のインターンシップに関する学生・企業ニーズのミスマッチに関する研究は、田中らが文献[8][9]に報告している。本稿ではH18～21年に実施したアンケート結果から、インターンシップには満足(質問1)したが、就職活動に役立つか(質問5)には役に立ったかわからないと回答した学生の進路について、追跡調査を行ったのでその結果を表4にまとめる。

表4 学生・企業ニーズ間のミスマッチ (人)

	H18	H19	H20	H21
インターンシップには満足したが、就職に役に立ったかわからない	6	4	7	7
進学	2	3	5	2
企業規模が異なる企業に就職	3	1	1	3
その他	1	0	1	未確定

各年、インターンシップには満足しているが、就職に役に立ったかわからないと回答する学生は、4～7名いるが、その多数は大学に進学した学生か、インターンシップ実習先と実際に就職した企業の規模が異なるケース(インターンシップ先は中小企業であったが、就職先は大企業である等)がほとんどであり、上記に当てはまらずインターンシップとしての実習に満足して頂けなかった学生数は毎年1～2名しかおらず、事前指導における実習先企業のマッチング指導の精度の高さが証明される結果となった。

9. むすび

過年度のインターンシップ統計データについてまとめた。平成22年度のデータを追加、第三者機関の認証において必要となるインターンシップ実施に係る学生向けアンケート結果や実施状況が把握できる資料について作成した。また、平成18～21年度のインターンシップ・アンケート結果について集計し、結果をまとめ、意識の変化の傾向について調査を行った。また外部報告書[4][5]と本校の比較を併記した。本資料でまとめた結果は今後の認証評価及びインターンシップ室の運営改善の資料とする。

文 献

- [1] "平成 21 年度 インターンシップ成果報告書", 東京経営者協会.2010.
- [2] "インターンシップ成果報告書", インターンシップ推進支援事務局, 2010.
- [3] "平成 21 年度 インターンシップ報告書", 東京都立産業技術高等専門学校. 2010.
- [4] "インターンシップに関するアンケート", インターンシップ成果報告書 2009 (H21 年度), pp. 85-111, (社)雇用問題研究会内インターンシップ推進支援事務局, 2010.
- [5] "インターンシップに関するアンケート", インターンシップ成果報告書 2008 (H20 年度), pp. 95-121, (社)雇用問題研究会内インターンシップ推進支援事務局, 2009.
- [6] 榎本, 江浦, "近年の荒川キャンパスにおけるインターンシップ実施状況について", 東京都立産業技術高等専門学校 インターンシップ室, 2010.
- [7] 榎本, 江浦, "インターンシップ実施に関する平成 21 年度アンケート調査結果", 東京都立産業技術高等専門学校 インターンシップ室, 2010.
- [8] 田中, 高野, "インターンシップにおける学生・企業間のミスマッチの研究", "経済教育" 第 28 号, 2009 年 9 月 pp64-74.
- [9] 田中, 高野, "インターンシップの事前・事後指導と企業ニーズ", "経済教育" 第 27 号, 2008 年 12 月 pp67-76.